兵庫・辻井遺跡

1　所在地　兵庫県姫路市辻井字山之脇
2　調査期間　一九八五年（昭60）四月～九月
3　発掘機関　姫路市教育委員会
4　調査担当者　山本博利・秋枝　芳
5　遺跡の種類　水田跡
6　遺跡の年代　弥生時代～平安時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は白鳳時代創建の寺院跡として著名で、旧夢前川（ゆめさき）の形成した沖積平野に立地する。標高は約一九mである。姫路市教育委員会は昭和五七年から市道安室バイパス工事に伴い発掘調査を実施している。昭和五七年の調査で掘立柱建物跡、土壙、井戸、溝等が検出された。井戸内より多量の須恵器と共に木簡が三点出土した。今回の調査は前回調査地の東約一五〇mに位置する。調査の結果、東端部より旧夢前川の跡と推定される河川跡が検出され、木製品等が多数出土した。

（龍　野）

旧河川は西北から南東の名古山方向への流れを示しており、川幅六〇m以上、深さは約三mである。旧河川内堆積土は下から黒色シルト層（弥生時代中期後半）、灰色シルト下層（七世紀初頭）、灰色シルト上層（八世紀前半）、明るい灰色シルト層（九世紀後半～一〇世紀初頭）等である。特に、灰色シルト上・下層より馬形・人形・舟形・斎串等の木製祭祀遺物が多数出土した。

木簡はいずれも灰色シルト上層より木製模造品・須恵器・土師器と共に出土した。この土層より木簡以外に「大井」「井戸」「殿」「大家」「夫」「力」「个」等の墨書土器が二三点出土したことは注目されよう。特に「夫」「力」の墨書土師器は昭和五七年検出の井戸内の墨書土師器と極めて類似した字体である。河川内堆積土は比較的早い段階に陸化し、その土壌面のいくつかに足跡、畦畔が検出されたことから、水田に利用したことが窺える。今後、木製模造品の祭祀の様相を解明することが必要となろう。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・□磨　　(31)×17×4　081
　　・□内□□
(2)　□二斗止□□」　　(128)×24×7　019

(3)
・□

・□□□月□□

(172)×23×7　081

(4)
「□□□□　□　□　□　□

(344)×34×3　019

(2)と(3)は直接接続しないが、同一木簡の断片である可能性がある。(4)は習書であろうか。

（山本博利・秋枝　芳）

「大伴」「夫」の墨書土器多数出土

――兵庫県教育委員会『丁・柳ヶ瀬遺跡発掘報告書』

一九八五年に兵庫県文化財調査報告書第三十冊として出版された。同書によると、七点の「大伴」、一一点の「夫」、その他「椋垣」「殿」などの墨書土器が出土している。「大伴」は平城宮、多賀城、姫路市辻井遺跡でみつかっているという。土器はいずれも奈良時代のもの。

本文編（本文二四八頁・図版七二図）図版編（一〇七図）。

申込先　神戸市中央区下山手通四丁目十六番三号

兵庫県文化協会　頒価　一一〇〇〇円

兵庫・長尾沖田遺跡

1 所在地　兵庫県佐用郡佐用町佐用・長尾

2 調査期間　一九八五年（昭60）五月～八月

3 発掘機関　兵庫県教育委員会

4 調査担当者　大平　茂・村上賢治

5 遺跡の種類　集落跡・寺院関連遺跡

6 遺跡の年代　弥生時代中期～古墳時代前期、奈良時代後半～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡の所在する佐用町は、播磨の西北端に位置し、歴史的・地理的に古来から交通の要衝（美作路・因幡路）である。

遺跡は、千種川支流の佐用川右岸、標高約一一〇mの台地上に立地している。また同台地西には、白鳳時代の創建と考えられる長尾廃寺の塔心礎が残存する。

（佐　用）

調査は、県土木道路改良